

平成 27 年度 第 1 回南魚沼市総合計画審議会議事録

とき：平成 27 年 4 月 2 日（木）午後 1 時 30 分から

ところ：南魚沼市役所 大会議室

1. 参加者

(1) 南魚沼市総合計画審議会委員（50 音順）

小野塚昭治委員 笠原章委員 川島亜紀子委員 佐藤昂一委員（会長） 佐藤吉昭委員
鈴木省三委員 高野修一委員 高野孝子委員（副会長） 高橋俊夫委員 田中せつ子委員
戸田要一委員 三原伸子委員 山岸健一委員 以上 13 名
（欠席：高橋四郎委員 町田誠委員）

(2) 南魚沼市

井口市長 岡村副市長 南雲教育長 阿部水道事業管理者
今井総務部長 板鼻市民生活部長 上村福祉保健部長 白井産業振興部長 近藤建設部長
中島教育部長 勝又消防長
事務局：清水企画政策課長 片桐企画主幹 高橋行革主幹 梅澤主任 半沢主事

2. 議題

1 開 会（進行：佐藤昂一会長）

2 挨拶（井口市長）

年度初めのお忙しい中ご出席ありがとうございます。今回から委員の数を 3 名増やし 15 名といたしました。一般公募により 3 名の方から出席いただいております。お受けいただき御礼を申し上げます。総合計画は 2 期に入ります。地方創生という事で、国も含め地方は地方版総合戦略の 5 ヶ年計画を作り、その中で南魚沼版 CCRC（プラチナタウン構想）を 2・3 年で実行していきたい。総合計画は 10 年間、総合戦略は 5 年間、CCRC は年限を設けてはいないが、27 年度の調査結果を受けて 28 年度から実施に入りたいと考えております。計画期間の異なる全ての計画がリンクしていかなければならず、難解の部分や専門性の部分も出てくるためお難儀をおかけしますが、委員の皆さまには南魚沼市の 10 年後、5 年後、2・3 年後を見据えながら、本日は十分にご審議いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

3 委員の委嘱

4 委員の紹介

5 南魚沼市総合計画について（説明：企画政策課 梅澤主任）

6 議 事

(1) 第 2 次総合計画のこれまでの経緯と今後の策定スケジュール

（説明：企画政策課 片桐企画主幹）

●質疑応答

高野孝子副会長

まち・ひと・しごと創生本部事務局の位置づけはどの様なものか。どの様な方がメンバーなのか。

片桐企画主幹

まち・ひと・しごと創生本部事務局は国の事務局である。国に選ばれたメンバーで構成され、これまで 4、5 回創生会議を開催している。その会議で地方への流れを作る具体的

な施策の部分が検討され、地方に情報として通知されている。

山岸委員

総合戦略のKPI（数値的指標）は、総合計画の目標とリンクしていくのか。

片桐企画主幹

そのとおりである。総合戦略で数値目標を設定するということは、総合計画にも数値的な目標を設定する必要があると考える。

田中委員

総合計画、総合戦略、CCRCの全ての担当を企画政策課で行うのか。28年に向けて全て計画を作ることになっており、スケジュールが大変苦しいと考える。企画政策課の人員の調整や補充は大丈夫なのか。

片桐企画主幹

そのとおりタイトなスケジュールである。総合戦略やCCRCの実現に向け、昨年12月4日の総合計画審議会で示した策定スケジュールよりも少し前倒しをしている。総合戦略は10月末という期限があるため精一杯努力していきたい。また、人員体制は、今年度、増員し7人から8人とした。協力体制を作りながら進めていきたい。

田中委員

皆さん忙しそうで残業が増えていくと思われる。無理のない体制で進めて欲しい。

佐藤昂一会長

事務局そのように進めて欲しい。

高橋委員

地方創生では、基軸に人口増を全面に挙げている。現在の総合計画の人口施策はどこで謳っているのか。

片桐企画主幹

現在の総合計画では明確に人口減少問題を謳っているところはない。今後、人口減少問題を入れていく方向で考えている。総合戦略と総合計画がリンクすると避けては通れない。また、現在、社会問題化している人口減少問題を総合計画に入れないということは考えられない。施策の中で反映させていきたい。

佐藤吉昭委員

国の政策がスピードアップしている。人口減少問題は、今後、都市部の人口が減って地方が再生の道になっていくと考える。大変ではあるが、一大テーマであり、転換の大きなポイントである。今までないものを欲しがるとよりも、今あるものを発掘していく時代である。この地域には、観光資源、人、何よりも住む人たちの愛着がある。そういう意味では大きな宝を再発掘するチャンスである。ぜひ頑張ってください。

片桐企画主幹

ありがとうございます。

佐藤昂一会長

総合計画審議会と総合戦略策定推進会議とリンクしないことを明確にした方が、委員の皆さんも理解しやすいと考える。リンクすると理解する上で複雑になると考えるが、事務局の考えはいかがか。

片桐企画主幹

委員のリンクは致しませんが、総合戦略の進捗状況は、総合計画審議会の中でも報告させていただきたい。

笠原委員

国から半命令的に降りてくる政策を市が実行していかなければという姿勢が見えた。しかし、この数十年間で国の施策は失敗しており、経済至上主義により地方が疲弊し、人口問題、少子高齢化問題も地方である。ある意味、国の政策は信頼していない。本当の意味で50年100年後の日本の国民を考えているか疑問である。独自に私たちが郷土を愛し、本当に住みやすい街づくりとは何かを、私たちが主体者として取り組んでいく必要がある。受動ではなく能動的にもっと踏み込んでいけないといけないという思いが個人的には強い。行政側の立場として大変さは分かった。しかし、この地域に住む私たちにしかできないことを具体化していく努力を行政と市民と一緒に力を合わせながらやっていく姿勢が重要と考えるが、いかがか。

市長

そのとおりである。地方版総合戦略は国に押し付けられている訳ではなく、我々の地域として人口減少社会をどうするのか、地域の活性化をどうするのかを独自に考えていくものである。その計画を国が認める、認めないという事はあるとは考えるが、国から押し付けられた政策は一切来ていない。地方も国も総合戦略を作り、一緒に進んでいこうという事である。今までの政策の中で失敗も成功もあったが、地方の時代という流れは定着してきている。佐藤委員のご意見のとおり、これから何か新しい事をやるのではなく、今ある物、この地方にしかない物をきちんと考えながら、総合戦略を策定していきたい。また、総合戦略の中間報告の中でもご意見をいただきたい。

鈴木委員

意見収集とは、今までに出ている様々な意見を対象として考えてよいのか。商工会から出ている意見を反映させていただく可能性があると考えてよいのか。

市長

これから意見を募り纏めるわけではない。若者まちづくり会議、まちづくりアンケート、そして今までにそれぞれの団体から市に出されている提言や要望を踏まえながら策定していきたい。

佐藤昂一会長

第2次総合計画の策定スケジュールについて了解ということでよろしいか。

委員一同：異議なし

(休憩 10分)

(2) 第2次総合計画基本構想(事務局案)について(説明:企画政策課 片桐企画主幹)

●質疑応答

笠原委員

市は財政状況を把握する為に単式簿記、または複式簿記のどちらを採用しているのか。複式簿記を東京都のように最近では取り入れる自治体が多いようである。単式簿記では私たちではなかなか解らない。公認会計士などの専門家に依頼して市の財政が今どういう状況なのか、市の財政の現状をオープンにしていくことがとても重要であるとする。

今井総務部長

現在は単式簿記である。並行して複式簿記に移行しようとしている。国が音頭をとり平成 29 年を目途に複式簿記に移し、全国一斉に評価が比べられるように取り組んでいる。まずは固定資産の評価が一番大事であるため 1 年位かけ整理し、徐々に複式簿記に移行していく。

笠原委員

庁内の総務課を中心に行うのか。公認会計士等の専門家を入れて行なうのか。

今井総務部長

これから専門家を入れてどんな形にするのか考えていくことになる。

山岸委員

- ① まちづくりアンケート結果については非常に細かい内容まで踏み込んだ説明となっていたが、3 月 15 日号の市報の方が解りやすかった。アンケート結果の統計はでた、3 回の節目年で分析も行なった、ここからが大事である。今までやってきた実施計画が適切だったかどうかの部分になってくると思う。評価が下がっている部分は、やってきた施策が必ずしも良かったかということそうではないという意見だと思う。
- ② 雇用の創出は大変な事業である。若い母親や子育ての世代が安心して子供を育てる環境があれば若干安い賃金であっても、例えば福祉等がしっかりしていれば給与水準がそこまですでいなくても満足度があると思う。
- ③ 若者まちづくり会議やアンケート結果にもあるように、克雪、雪を克服するという部分がしっかりでてきて、十分取り組んできているとは思いますが新しいエネルギーの活用が進むことにより、雪は降るけれどこれだけ南魚沼はやっているのも苦になりませんよという形になれば、都会からの移住者 400 人という中でも、交通の利便性のあるプラチナタウン構想に近づくと考える。
- ④ 昨年 9 月に行ったまちづくりアンケートの結果が、半年かかって、今、市報に載っている。全てを網羅しなくても、市がこれからどの様にしていきたいのか、早目に市民に伝えることを基本に考えることで、市民は意見が反映されてきたと実感が上がってくると思う。

市長

- ② 雇用の問題について、南魚沼ハローワーク管内の有効求人倍率は 1 を下回ることはほとんどない。2 月でも倍率 1.48 であり、スキー場が閉鎖した後もこの傾向は続いている。ある企業が南魚沼市に主力部門を移し募集をかけたところ応募が無かった。水準が高い人材を要望していた事もあるが、仕事はあるが就きたくない仕事ということであり、雇用のミスマッチが非常にある地域である。プラチナタウン、メディカルタウンもすべてが雇用結び付けるための施策である。きちんとした会社に勤めることを一番望んでいると思うが、なかなか難しい問題である。職種などもアンケートの中に盛込んでみたい。この地域には生産ラインにのる工場誘致はいらぬ。大学まででてくると能力や経験や知識を生かすことを求めており、今後も皆さん大学に行くようになるため、知的産業も含めて考えていきたい。しかし、雇用は突出して評判が悪く、分からない部分が多い。我々も悩んでおり良い意見があれば頂きたい。
- ④ 早目の公表については、意見のとおりである。心がけていきたい。

笠原委員

まちづくりアンケート結果で、住み続けたい理由の 16.6%が「自然環境が良い事」であり、そして市外に移りたい理由も 40%が「自然環境が厳しい」である。この厳しさとは豪雪であると考え。今年の大雪の際には、自分自身も市外への移住を妻と話し合った。克雪は年を重ねていくと切実な問題であり、非常に大きなネックである。魚沼市の商店街には雪があまり無い。それは流雪溝が非常に発達しているからである。流雪溝は

水で全てを川に持っていき、やり甲斐があり結果も出るため流雪溝は有効である。市内にもあるがあまり機能していない。流雪溝に対する姿勢はどうなっているのか。

市長

笠原委員の指摘のとおりである。流雪溝は雪の処理に威力を発揮するという事で、旧六日町から流雪溝整備計画を建て整備を行なっている。国や県の計画部分は終了しており、今後は市が行う枝の部分である。市街地の六日町駅東側は、ほぼ整備が終了しているが、六日町駅西側の整備が進んでいない。計画策定時、水利権を週1回としたため水が足りなかったが、新たに水利権を十二沢川から取得する目途も立った。お金のかかる事業であり一気には進まないが、2年後を目途に計画的に進めていきたい。

笠原委員

流雪溝整備はお金が大変かかるが、機械除雪にも多くのお金が使われていると聞いている。機械除雪では何も残らない。時間がかかっても長期的に流雪溝の普及を進めることにより、雪に対する考え方、重圧感が変わって来ると考える。

市長

ありがとうございます。

高野修一委員

市民からの意見徴収としてパブリックコメントがある。どの様な方法で意見を集めるのか。

片桐企画主幹

パブリックコメントは市の公式ウェブサイトで行うことを考えている。7月の総合計画審議会に中間報告する総合計画案はある程度の形になったものになるため、7月の総合計画審議会での意見を反映させた総合計画案でパブリックコメントを考えている。その後、パブリックコメントの意見を策定部会で総合計画に反映させ、総合計画審議会でも再度審議いただくこととなる。

高野修一委員

若者まちづくり会議は良い意見がでており、良い会議である。参加者がこの地域に対して様々な意見を持っている。もう少し発展させ、自分たちがだした意見をどの様にしたら実現できるのか、地域の若者たちに考える場を作って欲しい。それにより地域に対する思いが増すと考える。そのあたりも考えて欲しい。

高野孝子副会長

- ① 若者まちづくり会議はすごく面白い。1回が20名程度で参加者の人数が少ないため、どう見るかは難しいが、参加者はやる気がある人であり、貴重である。仕事を自分たちで作りたい、もっと自分達が行うためのサポートが欲しいと書いてあり、ひとつの良いヒントだと思う。来る方は何かをしたいと思っている人だと思う。何かをしたいと思っている人達に、何かができるような環境をどうやったら作る事ができるか今から考えることが大事である。
- ② 若者のネットワークは大変力強い。何度かやって何かが動き出せば、若い人たちは面白いと感じ、ネットワークがさらにパワーを生んでいく流れになると思う。今回の若者まちづくり会議は、市で設定したと思うが、この機会を離散せず、次の課題を与え自分たちでやってごらんというステージに引き上げ、自分たちが自立して動くことができるとよいと考える。
- ③ 働いている世代、税金を一番納める世代にとって大事なものは、仕事、教育、健康的な暮らしができる環境である。その3つの要素をしっかり押さえていけば、子供の教育のため

には何でも行う親は結構多く、そのために移住まで行なう。この地域だからできる素晴らしい経験を若い世代に出来るという事が伝われば、そういう事を望んでいる親は移ってくる。そして、その親たちにとって働ける場所があり、何かを生み出すためのサポートがあることが南魚沼市の魅力になると思う。

- ④ 農地、緑、自然環境は見るだけでなく、財産である。今、農家は自家用で野菜を栽培している。移住してきた人や親元を出た若夫婦が気軽に野菜を栽培できる環境や条例があるとよい。豊2豊分の農地があれば、一つの家庭で食べる野菜がたくさん作れ、それが豊かさに繋がると思う。
- ⑤ 南魚沼市はキャッシュやグローバルマネーに頼らなくてもかなりの部分を賄えるローカル経済がある。グローバル経済とローカル経済の2本立てをもう少し利用できると考える。
- ⑥ 気候変動はすごく深刻で止まらない。この後、すごい大雪や全く雪の降らない年もまた来る。夏は、台風とか局所的な豪雨が繰り返され止まらない。アンケートでは自然が厳しいと書いている人が多く、雪の事だと思いが、日本中、世界中どこにいても自然は厳しく、局所的に襲われ大変である。越後のような標高の低い場所でのスキー運営は、10年後位にはスキーに適さない雪の量と質になってくる。残念ながらスキー産業も今のまま気候変動が進むと長くないと科学的な知見が得られている。そういったことも覚悟した運営が必要であり、どうなるか解らないながらも起こるかもしれない事を考えながら、仕事の作り方や土地利用を考えていく必要がある。

佐藤吉昭委員

若者は経済成長の発展がユートピアではないと知っている。だから、若者まちづくり会議のような場は必要であり、活かして前進して欲しい。何か出てくると思う。

川島委員

- ① 若者まちづくり会議にファシリテーターとしてワークショップの場つなぎを行なった。参加者は、南魚沼市をもっと豊かに楽しくしたいと考えている人であり、気持ちがある方である。そのような人達をもっと巻き込み、南魚沼市は可能性がたくさんある所だと発信していければ、若者の流出も防げると思う。また、そういう親を見ることで、子供たちも影響を受け、雪は嫌なものではない雪は楽しいものだと思うと考える。小さい頃から教育していく事で自分達の市に誇りを持つことができる。このような場を増やし、そのような人達をもっと巻き込んで、新しい何かを生み出す仕組みをサポートできるとよい。
- ② 参加者には走ることが好きなグループの代表がいた。走るだけでなく、せっかく走るなら街の中のごみを拾う活動も一緒に行なっている。そのような任意の団体についても市で発信し、双方の関係づくりを行ない、互いに協力できる体制があるとよいと考える。

小野塚委員

- ① 事務局案については、まちづくり会議やアンケート結果も参考にしており、このまま進めていって良いと考える。
- ② 行財政改革では民営化やアウトソーシングが全国的にも強くなっている。効率的な行政は必要であるが、安上がりな行政は市民が求めているものではない。その辺を検討いただきたい。
- ③ 地方創生でも強く言われているのは観光と農業の6次産業化、農業の振興である。政府の農業政策と必ずしも一致していないので疑問に思っている。しかし、アンケート等から見ても市民は南魚沼市のこの環境を評価しており認めていると受け取れる。
- ④ 観光政策をきちんと作り上げるには日常の仕事が忙しい。しっかりと政策を練り上げる体制を市の中に作って欲しい。
- ⑤ 全国で道の駅は1040か所、その中で道の駅南魚沼は重点道の駅候補として選ばれた。最近、道路協会の雑誌や日経のローカルにも道の駅南魚沼は取り上げられている。農業と観光をつなぐ大きなポイントになる。観光に携わる者として市民の皆さんと協働し道の駅

を通じた地方創生にしっかりと取り組みたい。

高橋委員

緊急課題として雇用促進問題がでてきている。全力で取り組む必要がある。今まで市外から企業を誘致してきたが、雇用促進することは、雇用の受け皿を作ることである。地元企業の雇用の受け皿を育てる政策が出てくると考える。市の予算の中で市外に流れている金額はどれだけあるのか。その内、地元企業で行うことができるものがあれば、地域の産業を育てる意味においても行政が政策として誘導して行って欲しい。

田中委員

- ① 資料が多く、多岐に渡る説明のため進め方は難しいと思うが、事務局の説明時間が長く、委員全員が意見を発言できなかったと感じた。今年度、総合計画審議会は3回しかない。時間の進め方、説明の仕方、委員が十分な発言が出来るように次回は組んで欲しい。
- ② 子育てや防災でもパブリックコメントを行なっているが総合計画のパブリックコメントではどれだけの意見が集まるのか、また期待ができるのか。CCRCのお試し居住の実施期間は夏の良い季節のみで良いのか。空き家が大変多いが、空き家をどの様に活用していくのか。CCRCは今まで3回勉強会を開き、今後、推進協議会が設立されるが、具体的な内容はどうなのか。色々と質問したかった。時間の配分が足りないと思う。

佐藤昂一会長

事務局、次回からは時間配分について配慮をお願いしたい。

佐藤昂一会長

皆さんから様々な貴重なご意見をいただきました。事務局には今回の意見を反映していただくことをお約束いただき、第2次総合計画基本構想の事務局案に対し具体的に変更を求める意見はありますか。

委員一同：異議なし

佐藤昂一会長

それでは、事務局案の通り、承認するというところでよろしいでしょうか。

委員一同：異議なし

市長

ありがとうございました。

(3) その他

三原委員

- ① アンケート結果をみると、良い事もたくさん書いているが、「して欲しい」という意見もたくさんある。きちんと受け止めて欲しい。誰もが南魚沼市に住んで生きていて良かったと感じるようになって行って欲しい。
- ② アンケートの質問の表現について、障がい者を傷つけるような表現があった。自分が受け取った時にどう感じるか、受け取る人のことを考えて文書を作って欲しい。

7 閉 会 （高野孝子副会長）

皆様お疲れ様でした。委員の皆さんもこれ以上何も言う事はないと思います。それぞれの時間が限られている中で、どのように重要な案件を十分知らせ、理解させ、かつ審議いた

くのは大変悩ましいところだと思います。しかし、今日は、建設的な良い意見がたくさん出たと思います。我々の期待をお送りしますので、このまま進めていただきたいと思います。

(16 : 30 閉会)